

令和元年度 公共事業事後評価調書

1. 事業説明シート

(区分) **国補**・県単

事業名	広域営農団地農道整備事業（国補）		事業箇所	韮崎市円野町上円井、 北杜市武川町宮脇～ 北杜市白州町鳥原平	地区名	甲斐駒ヶ岳	事業主体	山梨県
(1) 事業着手年度	平成7年度	(2) 事業期間	平成7年度 ～ 平成26年度	(3) 完了後経過年数	5年	(4) 総事業費	7,188百万円	
(5) 事業着手時点の課題・背景					(8) 事業位置図等			
<p>本地区は、甲斐駒ヶ岳の麓に位置し、近年では一般財団法人 日本穀物検定協会が実施する米の食味ランキングで特Aを獲得した梨北米を生産するなど、良質な水と肥沃な農地を有する農村地帯である。また、区画整理等の基盤整備により冷涼な気候を活かした畑作目への転換も進みつつある。</p> <p>一方、峡北地域全体としては、山麓部の農業地帯から基幹道路までのアクセスが悪いことから、広域的に農道整備を計画し、農産物の流通の合理化や地域農業の維持発展を図っている。</p> <p>本事業では隣接する農免農道と接続し、国道20号や、中央自動車道と結ぶことにより、県内消費地への輸送の効率化や、首都圏などを中心とする大規模消費地へのアクセスが可能となり、甲斐駒ヶ岳地帯の輸送の合理化や沿線の農地の利便性の向上、集落間のアクセス向上など、地域農業の持続的な発展を図ることを目的に実施した。</p>								
(6) 事業着手時点で想定した整備目標・効果								
<input type="checkbox"/> 主要目標 ○集落間、小規模拠点施設へのアクセス向上 <input type="checkbox"/> 副次目標 ○歩行者等の安全性の確保 <input type="checkbox"/> 副次効果 ○農林産物の販売促進 <input type="checkbox"/> ○他事業との一体施工								
(7) 整備内容（目標達成の方法）								
農道工 延長L=10,808m 幅員W=車道7.0m + 歩道3.0m								

2. 評価シート (1)

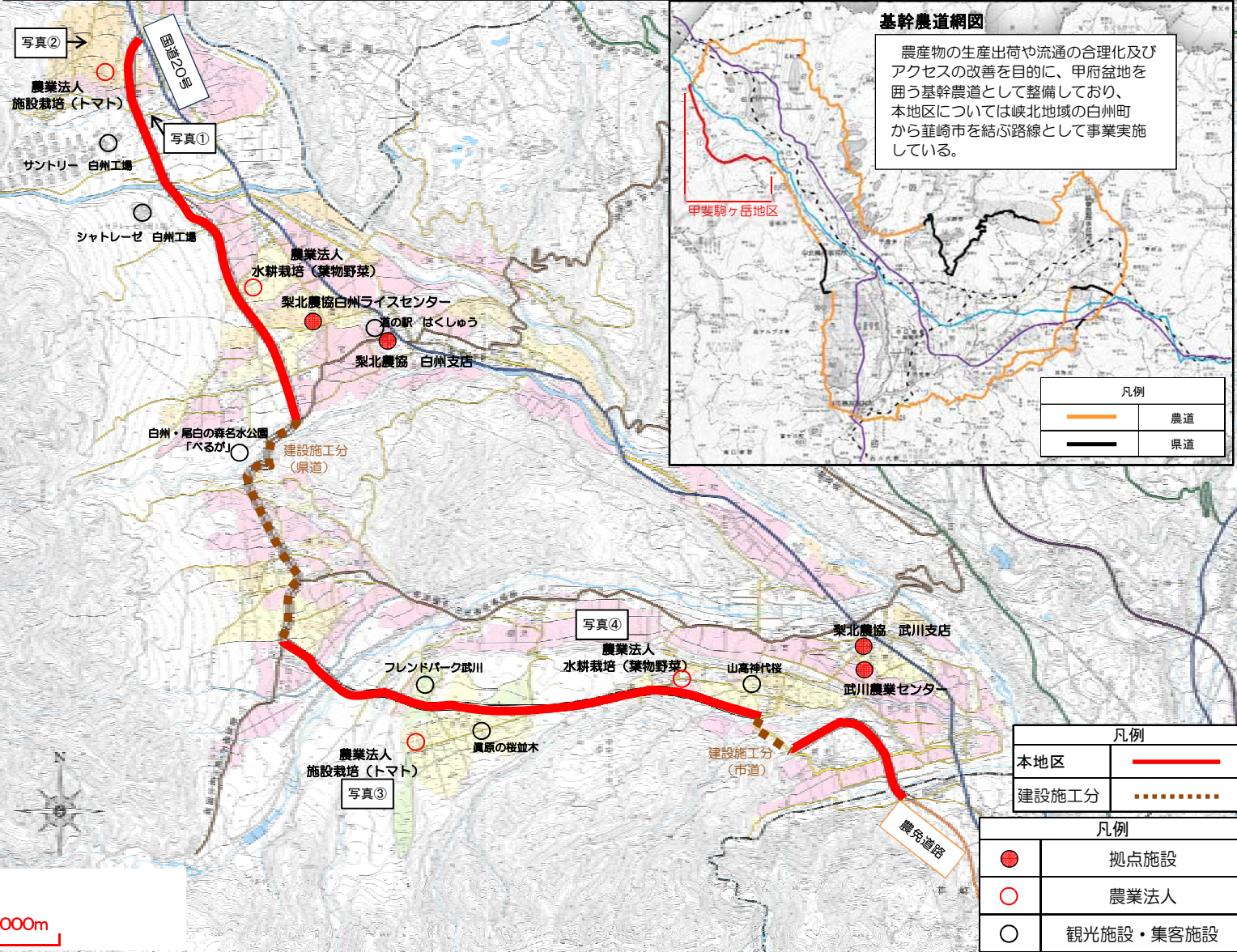
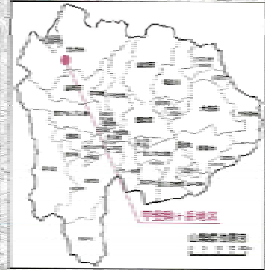
(1) 事業貢献度 〈良・不良〉	(2) 費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 〈有・無〉																																																																						
<p>(理由)</p> <p>基幹農道が整備されたことにより、農産物輸送や農地への往来が効率的になり、農産物の販売促進に繋がるなど地域農業の振興が図られるとともに、生活道路として利便性の向上に大きく貢献している。</p> <p>①主要目標</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>事業着手時点数値等</th> <th>事後評価時点数値等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4m以上の道路延長</td> <td>0% (設定せず)</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/> 評価 当該ルートにおいて、全幅員4.0m以上の延伸率0% (0m/10,808m) 「基準値79.5%以上」であったが、現時点では事業の完成により4m未満の区間はすべて7mに改良された。</p> <p>②副次目標</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>事業着手時点数値等</th> <th>事後評価時点数値等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通学路の指定</td> <td>通学路指定なし</td> <td>通学路指定あり</td> </tr> <tr> <td>現況の歩道幅員</td> <td>0m (なし)</td> <td>3m (新設)</td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/> 評価 地域や教育委員会と協議し、小学校や観光施設付近の一部区間に歩道を設置した。現在、小学校の通学路に指定され、歩行者の安全性確保に効果を発揮している。</p> <p>③副次効果</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農林産物の販売促進</td> <td>観光客の流入の増加とともに沿線付近には観光施設等に併設した農産物直売所が開設され、農産物の販売が促進されている。</td> </tr> <tr> <td>他事業との一体施工</td> <td>県、市が協議調整のうえ、広域農道、県道、市道を一体的に整備したため、効率的な事業実施が図られた。</td> </tr> </tbody> </table> <p>④その他の事業効果の発現状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本農道全線開通を契機に良質な水と肥沃な農地を生かして、沿線では企業による農業への参入が行われ、本農道を活用した集出荷が行われている。さらに企業が参入したことにより地域の雇用が確保されている。 ・観光集客施設等へのアクセス道路として、県内外の観光客に広く活用されている。また、路線沿線の工場への見学客が利用するなど、観光入込み客数が増加している。 	指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等	4m以上の道路延長	0% (設定せず)	100%	指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等	通学路の指定	通学路指定なし	通学路指定あり	現況の歩道幅員	0m (なし)	3m (新設)	項目	内容	農林産物の販売促進	観光客の流入の増加とともに沿線付近には観光施設等に併設した農産物直売所が開設され、農産物の販売が促進されている。	他事業との一体施工	県、市が協議調整のうえ、広域農道、県道、市道を一体的に整備したため、効率的な事業実施が図られた。	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>着手時点</th> <th>再評価時点</th> <th>事後評価時点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td>6,052 百万円</td> <td>8,254 百万円</td> <td>7,188 百万円</td> </tr> <tr> <td>工期</td> <td>H7 ~ H17</td> <td>H7 ~ H23</td> <td>H7 ~ H26</td> </tr> <tr> <td>評価基準年</td> <td>H6</td> <td>H21</td> <td>R1</td> </tr> <tr> <td rowspan="7" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">経済効率性</td> <td>費用</td> <td>6,522 百万円</td> <td>10,421 百万円</td> <td>8,873 百万円</td> </tr> <tr> <td>建設費</td> <td>6,052 百万円</td> <td>9,889 百万円</td> <td>8,317 百万円</td> </tr> <tr> <td>関連事業費</td> <td>470 百万円</td> <td>532 百万円</td> <td>556 百万円</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>6,738 百万円</td> <td>11,786 百万円</td> <td>9,909 百万円</td> </tr> <tr> <td>走行経費節減効果</td> <td>6,714 百万円</td> <td>7,657 百万円</td> <td>6,202 百万円</td> </tr> <tr> <td>安全性向上効果</td> <td>- 百万円</td> <td>2,450 百万円</td> <td>2,614 百万円</td> </tr> <tr> <td>その他※</td> <td>24 百万円</td> <td>1,679 百万円</td> <td>1,093 百万円</td> </tr> <tr> <td>B/C</td> <td>1.0</td> <td>1.1</td> <td>1.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>※その他は、品質向上効果、維持管理費節減効果、更新効果、文化財発見効果 費用便益比(B/C)は1.0を超えており、経済効率性は確保されている。</p> <p>(要因変化の分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総事業費、費用：建設施工分を利用するルートへ見直しを行い、一体的な整備を行うことにより、橋梁1橋を含む区間が不要となったことから事業費が減額となった。 <p>③事業実施による環境の変化</p> <p>①自然環境への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通作条件が悪い田畑は耕作放棄地が見受けられていたが、農道ができたことにより条件が改善され、耕作放棄地の増加の抑制につながっている。 <p>②生活・居住環境等への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沿線に企業が参入し、地域の雇用が確保されている。 ・神代桜や真原の桜並木へのアクセス道路として、県内外の観光客に広く活用されている。また、路線沿線の工場への見学客が利用するなど、観光客流入のメインルートとして活用されている。 ・北杜市の白州町から武川町を経由して韮崎市を結ぶルートとして利便性が高い。 <p>③環境保全対策の効果発現状況 (措置を講じた場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路法面を土羽仕上げとし植生を行うことで、周辺景観と一体となるよう配慮した。 <p>④社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響</p> <p>①社会経済状況の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>②関連計画・関連事業の状況の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>③事業環境等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし 	項目	着手時点	再評価時点	事後評価時点	総事業費	6,052 百万円	8,254 百万円	7,188 百万円	工期	H7 ~ H17	H7 ~ H23	H7 ~ H26	評価基準年	H6	H21	R1	経済効率性	費用	6,522 百万円	10,421 百万円	8,873 百万円	建設費	6,052 百万円	9,889 百万円	8,317 百万円	関連事業費	470 百万円	532 百万円	556 百万円	便益	6,738 百万円	11,786 百万円	9,909 百万円	走行経費節減効果	6,714 百万円	7,657 百万円	6,202 百万円	安全性向上効果	- 百万円	2,450 百万円	2,614 百万円	その他※	24 百万円	1,679 百万円	1,093 百万円	B/C	1.0	1.1	1.1
指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等																																																																					
4m以上の道路延長	0% (設定せず)	100%																																																																					
指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等																																																																					
通学路の指定	通学路指定なし	通学路指定あり																																																																					
現況の歩道幅員	0m (なし)	3m (新設)																																																																					
項目	内容																																																																						
農林産物の販売促進	観光客の流入の増加とともに沿線付近には観光施設等に併設した農産物直売所が開設され、農産物の販売が促進されている。																																																																						
他事業との一体施工	県、市が協議調整のうえ、広域農道、県道、市道を一体的に整備したため、効率的な事業実施が図られた。																																																																						
項目	着手時点	再評価時点	事後評価時点																																																																				
総事業費	6,052 百万円	8,254 百万円	7,188 百万円																																																																				
工期	H7 ~ H17	H7 ~ H23	H7 ~ H26																																																																				
評価基準年	H6	H21	R1																																																																				
経済効率性	費用	6,522 百万円	10,421 百万円	8,873 百万円																																																																			
	建設費	6,052 百万円	9,889 百万円	8,317 百万円																																																																			
	関連事業費	470 百万円	532 百万円	556 百万円																																																																			
	便益	6,738 百万円	11,786 百万円	9,909 百万円																																																																			
	走行経費節減効果	6,714 百万円	7,657 百万円	6,202 百万円																																																																			
	安全性向上効果	- 百万円	2,450 百万円	2,614 百万円																																																																			
	その他※	24 百万円	1,679 百万円	1,093 百万円																																																																			
B/C	1.0	1.1	1.1																																																																				

評価シート（2）

<p>（5）今後の事後評価の必要性 〈有・無〉</p> <p>（理由）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクセス向上により農産物の輸送が合理化されたことから、沿線には施設栽培を行う農業法人が参入し、首都圏などに向け本農道を活用し、出荷を行っている。また、施設での農産物の栽培に常時約140人ほどの雇用が確保されている。さらに、一般交通の流入も増加するなど十分な効果が発揮されているため、今後の事後評価は必要ないと思われる。 <p>□「有」の場合の実施時期及び方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時期： 年度 ・方法： 	<p>（7）同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 〈有・無〉</p> <p>（理由）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>（具体的反映策）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし
<p>（6）本事業における改善措置の必要性</p> <p>（理由）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>（具体的反映策）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>（既に実施した改善策の内容と効果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし 	<p>（8）事業評価手法の見直しの必要性 〈有・無〉</p> <p>（理由）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>（具体的反映策）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし
	<p>（9）その他特筆すべき事項 〈有・無〉</p> <p>本線に隣接、接続する県道、市道管理者との連絡・調整を密に行うことにより、各道路における事業と一体的な整備が可能となり、事業費の抑制に繋がった。</p>

広域営農団地農道整備事業

甲斐駒ヶ岳地区



基幹農道網図
 農産物の生産出荷や流通の合理化及びアクセスの改善を目的に、甲府盆地を囲う基幹農道として整備しており、本地区については峡北地域の白州町から韮崎市を結ぶ路線として事業実施している。

凡例	
	農道
	県道

凡例	
	市道
	町道
	村道
	建設施工分(県道)
	建設施工分(市道)
	拠点施設
	農業法人
	観光施設・集客施設

凡例	
	本地区
	建設施工分
	拠点施設
	農業法人
	観光施設・集客施設

1,000m

3. 添付資料シート（2）



① 広域農道の全線開通により、主要道路とのアクセスが向上し、輸送の合理化が図られた。



② 広域農道の沿線では、近隣の耕作放棄地が解消され営農団地が形成されている。



広域農道の開通を契機に、多様な担い手（農業法人）の参入が進んでいる。それに伴い、常時140人ほどの雇用が確保されている。

③ 左写真：水耕栽培（ほうれん草、パクチー）を行い、首都圏のスーパーへ出荷している。

④ 右写真：トマトの施設栽培を行い、県内外のスーパーへ出荷している。